

如何提升對助動詞「らしい」用法之理解 —基於日語學習者語料庫「I-JAS」的分析—

劉怡伶

東吳大學日本語文學系 教授

摘要

利用學習者語料庫進行調查，不僅可了解學習者學習上的困難點，亦可掌握指導時應說明的重點。本研究即是利用「多母語日語學習者橫向語料庫(I-JAS)」，考察台灣人學習者對「らしい」的使用情況，並分析學習困難的原因及用法說明的不足處。分析結果顯示：1) 台灣人學習者在應當使用推定「らしい」時傾向於使用「ようだ」「みたい」、2) 台灣人學習者傾向將日語母語者難以認定為事實的訊息視作為確定的事實傳達、3) 台灣人學習者傾向於在敬體的對話形態中敘述傳聞時，使用「そうだ」，而非使用「らしい」。為解決上述問題，我們參照「I-JAS」裡日語母語話者的使用情況，提出了可供句型說明時使用的建言。

關鍵詞：日語學習者、語料庫、助動詞、推測、傳聞

受理日期:2022年 08月 24日

通過日期:2022年 10月 25日

DOI: 10.29758/TWRYJYSB.202212_(39).0007

How to Gain a Deeper Understanding of the Auxiliary Verb "rasii": A Corpus-Based Analysis of Taiwanese JFL Learners

Liu, Yi-Ling

Professor, Soochow University

Abstract

Analysis of learner corpus can help teachers reflect on their teaching and have a clearer idea of the problems students face. In this paper, we used the data of the learner corpus "I-JAS" to examine Taiwanese JFL learners' actual use of "rasii" and analyze the causes of their learning difficulties. The analysis revealed the following: 1) Taiwanese learners tend to use "youda" or "mitaida" when they should use "rasii"; 2) Taiwanese learners tend to treat information that is difficult for native Japanese speakers to treat as certain facts; 3) Taiwanese learners tend to use "souda" rather than "rasii" when expressing hearsay. To solve the aforementioned problems, we proposed some teaching suggestions based on the learner corpus.

Keywords: Japanese learner, corpus, auxiliary verb, inference, hearsay

助動詞「らしい」の理解を促すために —日本語学習者コーパス『I-JAS』に基づく分析—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系 教授

要旨

学習者コーパスを通して、学習の困難さを調査することができるだけでなく、説明のポイントも掴むことができる。本稿では、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)』を利用して、台湾人学習者の「らしい」の使用実態を考察し、学習困難の原因や記述の問題点を分析した。分析の結果、1) 台湾人学習者は推定の「ようだ」「みたいだ」を使用すべきところを推定の「らしい」を使用している傾向があること、2) 台湾人学習者は、日本語母語話者にとって確かな事実として扱いにくい情報を確かな事実として扱う傾向があること、3) 台湾人学習者は丁寧体基調の対話において伝聞の「らしい」より伝聞の「そうだ」を使用する傾向があることが明らかになった。前述の問題点を解決するために、『I-JAS』における日本語母語話者の使用実態を参考に指導改善の提案を行った。

キーワード：日本語学習者、コーパス、助動詞、推量、伝聞、

助動詞「らしい」の理解を促すために —日本語学習者コーパス『I-JAS』に基づく分析—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系 教授

1.はじめに

非母語話者への日本語教育を考える際に、文法や語彙の指導はもちろん、学習上の困難点を把握することも重要である。日本語学習の難しさを知ることで、どの項目をどのように説明すべきかがわかり、効果的な指導が可能になる（迫田 2020）。

本稿では、助動詞「らしい」¹を例に、学習者コーパスをどのように文法指導に生かすことができるかを示す。具体的には、日本語学習者コーパス『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）』を利用して、台湾人学習者の「らしい」の使用実態を考察し、学習困難の原因や記述の問題点を明らかにする。また日本語母語話者の用例を参考に、指導改善の提案を行う。

ここで「らしい」を考察対象としたのは、台湾人学習者と日本語母語話者の間で異なる使用傾向が見られ²、指導内容の説明に改善の余地があると考えからである。また、本稿では、記述の一般化を図るためではなく、台湾人学習者に必要な指導内容を考えるため、台湾人学習者の使用実態を考察することにした。

本稿の以下の構成は次の通りである。2 節では従来の記述をまとめる。3 節ではデータの収集と分析方法を述べる。4 節では「らしい」の使用実態を考察する。5 節では「らしい」の学習困難点を分析する。6 節ではまとめと今後の課題を述べる。

¹ 本稿では「らしい」の助動詞用法に焦点を当てるため、接尾辞用法は対象外とする。以下、説明の便宜のため、助動詞「らしい」を「らしい」と呼ぶ。

² 台湾人学習者と日本語母語話者の「らしい」の使用傾向について詳しくは 4.1 節で述べる。

2. 従来の記述

「らしい」に関する記述は寺村(1984)、森田(1989)、森山(1989)、田野村(1991)、益岡(1991)、益岡・田窪(1992)、中畠(1990、1992)、仁田(1992)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵ほか(2000)、菊池(2000)、宮崎(2002)、斎藤(2002)、澤西(2002)、黄(2003)、三宅(1995、2006)、楠本(2008)、中俣(2014)、金谷(2018)などにある。従来の記述をまとめると次のようになる。

(1) 「らしい」の意味・用法

- a. 「らしい」は伝聞や観察可能なことがらなどによる推定(推量)を表す用法がある(寺村 1984、益岡・田窪 1992、グループ・ジャマシイ 1998、庵ほか 2000、菊池 2000、宮崎 2002 など)。
- b. 「らしい」は推定用法のほか、伝聞を表す用法もある。日本語学習者に「らしい」の伝聞用法を指導する必要がある(森山 1989、田野村 1991、仁田 1992、三宅 1995、2006、庵ほか 2000、宮崎 2002、黄 2003、楠本 2008、金谷 2018 など)。

まず、次のように、「らしい」は推定を表す用法がある(田野村 1991、益岡・田窪 1992、宮崎 2002 など)。

- (2) アニータは、わたしの手から綿を受け取ると、糸をくり出し、粘土球の上に巻きつけた。糸を作って見せようとするつもりらしい。
(田野村 1991 の例 2)

この場合の判断根拠については、益岡・田窪(1992)では「間接的な経験(伝聞、他人の調査結果など)」であるとしており、グループ・ジャマシイ(1998)では「外部からの情報や観察可能なことがらなど客観的なものである」と説明している。

- (3) あの人はどうも結婚しているらしい。田中君が子供と遊園地で遊んでいるのを見たと言っている。(益岡・田窪 1992:128)
- (4) 兄はどうも試験がうまくいかなかったららしく、帰ってくるなり部屋に閉じこもってしまった。

(グループ・ジャマシイ 1998: 632 の例 5)

また菊池 (2000) では、推定を表す「らしい」と「ようだ」について、直接の観察に密着して対象の様子を述べるわけではなく、推論を伴ったり伝聞に基づいたりして判断内容を述べる場合は「らしい」を使い、「ようだ」は使わないと述べている。

- (5) あの秘書は愚鈍なように見えるが、あのやり手の社長が手放さないのだから、あれでなかなか有能{?なようだ/らしい}。

(菊池 2000 の例 12)

以上の記述から、推定の「らしい」を理解するためにこの場合の判断根拠の特徴を把握する必要があると言える。

次に、「らしい」は伝聞を表す用法もある。仁田 (1992) では、伝聞の「らしい」は対話文に現れやすく、非対話型の長い文連続の中での「らしい」は「徴候の元での推し量り」になりやすいと述べている。三宅 (1995: 187) では、(6)の「らしい」は伝聞的な意味にずれ込んでいると説明している。

- (6) 「こういう社員旅行もいいよな」「でもただの社員旅行じゃないよ。旅行中に社員の度量とか能力をためす{らしい/そう}だよ」
(三宅 1995 の例 15 と 15' ³)

また、三宅 (1995: 188) では「らしい」が伝聞的な意味にずれ込

³ 紙幅の都合上、三宅(1992)の二つの例を一つにして示している。

む条件について、『推論の現場性』が満たさない時」であると説明している。例えば、(7)では、伝聞的な意味が成立しているのは、発話の現場で証拠から命題への推論が行われたとは考えにくいからである。

(7) 「そういえば、彼の奥さん、つわりらしいよ」

(三宅 1995 の例 16)

一方、先行研究には、「らしい」の伝聞用法を認めない立場もある。例えば、益岡 (1991) では、伝聞の「らしい」は伝聞の「そうだ」と異なり、他からの情報をそのまま伝えるだけの表現ではないと述べている。

(8) 私にはとても信じられないことだが、前大統領が捕まったそう
うだ。 (益岡 1991 : 121 の例 59)

(9) ?私にはとても信じられないことだが、前大統領が捕まった
らしい。 (益岡 1991 : 121 の例 60)⁴

また、宮崎 (2002) も『らしい』のこの用法は、厳密には、伝聞した内容をそのまま伝えるものではなく、やはり、伝聞情報を証拠として、その情報のもとになった事実が存在することを推定する用法と言うべき」であると述べている。

しかし、森山 (1989) の指摘のように、情報把握 (伝聞) の形式「そうだ」と「らしい」は「話し手の判断とは基本的には無関係であって、叙述内容に対する談話的な一種のキャンセルさえすること

⁴ この文法性の判断は益岡によるもの。しかし、次のように、「らしい」は「～信じられないことだけど」といった表現と共起できる。

(i) 信じられないことだけど、先の上昇や落差を楽しみに頻繁に乗る人も
いる {らしい/そうだ}。 (<https://onl.la/K4ZgbkX><2022.7.23>)

(i)では、「らしい」を伝聞の「そうだ」に置き換えられることから、伝聞内容に対して、信じられないという話者の気持ちを表していると言える (斜線の後ろは筆者による)。

ができる」。

- (11) 彼が部屋にいる {らしい／そうだ／*ようだ} が、それは違
うと思う。 (森山 1989 の例 45、46、47⁵)

庵ほか(2000)などの指摘のように、「らしい」は伝聞の「そうだ」と同様に情報源を表す「によると」と共起できる⁶。

- (12) うわさによると田中さんは来月神戸へ引っ越すらしいです。
(庵ほか 2000 : 132 の例 10)

- (13) 新聞によると昨日の雪で新幹線が遅れたそうだ。
(庵ほか 2000 : 131 の例 5)

「らしい」の推定用法と伝聞用法は明確に区別できない場合もあるが、伝聞用法を認めない場合は(11)のような「らしい」と伝聞の「そうだ」の共通点を説明できない。また、(12)の「らしい」は推定用法、(13)の「そうだ」は伝聞用法という説明は日本語学習者にとって理解しにくいと思われる。

更に、「らしい」を、日本語教育において第一義的に「伝聞」を表す形式として導入すべきとする研究者もいる。例えば、黄(2003)では日本語母語話者を対象にアンケート調査した結果、会話場面では「らしい」は推定用法より、伝聞用法として使われることが多いことを明らかにした上、「最初の段階では、「らしい」を伝聞用法として、「ようだ」「みたいだ」を推定用法として違う課で」提示すべきであると述べている。

また金谷(2018)では、シナリオの用例を中心に調査した結果、

⁵ 紙幅の都合上、森山(1989)の三つの例を一つにして示している。

⁶ 庵ほか(2000:132)では伝聞の「そうだ」は情報源がはっきりしている場合に使われることが多いのに対して、「らしい」はうわさなど情報源が不明確な場合によく使われる傾向があると説明しているが、この点について詳しくは 5.2 節で述べる。

「らしい」は談話では連体修飾のとき以外は、伝聞用法に傾き、推定用法は専ら「語り」において使われているという実態があることを指摘している。日本語学習者に「らしい」の伝聞用法を指導することが重要であると言える。

こうした日本語教育の観点を踏まえて、本稿では「らしい」を推定用法と伝聞用法の二つに分けて考察を進める。用法の分類基準については、前述した三宅（1995）を参考にする。即ち、「推論の現場性（発話の現場で証拠から命題への推論が行われたこと）」が認められない（または認められにくい）場合を伝聞用法とし、「推論の現場性」が認められる場合を「推定用法」とする。

以上、「らしい」に関する記述をまとめた。従来の記述では「らしい」は、用法の特徴、推論根拠及び「ようだ」との違いについて記述されているが、こうした記述は十分かどうか、特に台湾人学習者のために、どのような補足的な説明が必要かを知るために更なる分析が必要である。そこで、本稿では、日本語学習者コーパスを利用して、台湾人学習者の「らしい」の使用実態を考察する。

3. データの収集と分析方法

本稿では、台湾人学習者のデータを収集するために、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）』を利用した⁷。『I-JAS』を利用した理由は二つある。一つは『I-JAS』に多様なタスクのデータが収録されているため、タスクごとの「らしい」の使用実態を考察できるからである。もう一つは、日本語学習者のデータだけでなく、日本語母語話者のデータもあるので、それぞれの使用特徴を比較できるからである。

また、データ抽出の際に、コーパス検索アプリケーション「中納言」を利用した。検索条件は下記の通りである（(14a) (14b)はそれぞれ

⁷ 『I-JAS』には、事前調査（任意調査）のタスク（4種類）と、対面調査のタスク（8種類）のデータが収録されているが、本稿では、紙幅の関係で対面調査のタスクのデータのみを考察する。

れ台湾人学習者と日本語母語話者のデータを抽出するための条件である)。

(14) 「らしい」の検索条件

a. キー: (語彙素="らしい" AND 品詞="助動詞")

IN (調査地タスク="中国語(台湾)-ST1" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-ST2" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-I" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-RP1" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-RP2" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-D" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-SW1" OR 調査地タスク="中国語(台湾)-SW2" OR 調査地="中国語(台湾)")

b. キー: (語彙素="らしい" AND 品詞="助動詞")

IN (調査地タスク="日本語母語話者-ST1" OR 調査地タスク="日本語母語話者-ST2" OR 調査地タスク="日本語母語話者-I" OR 調査地タスク="日本語母語話者-RP1" OR 調査地タスク="日本語母語話者-RP2" OR 調査地タスク="日本語母語話者-D" OR 調査地タスク="日本語母語話者-SW1" OR 調査地タスク="日本語母語話者-SW2" OR 調査地="日本語母語話者")

表1は『I-JAS』における台湾人学習者と日本語母語話者の「らしい」の使用数を示したものである⁸。総語数⁹の違いを考慮し、100万語あたりの使用数も示した。また比較のために、類似した機能を持つ助動詞「ようだ(ようです)」「みたいだ(みたいです)」の使用数もまとめた。以下便宜上、台湾人学習者を TW、日本語母語話者を JJ と呼ぶ。

⁸ 誤解析により、抽出されたデータの中に接尾辞「らしい」の例も含まれているため、手作業で対象外の例を取り除いた(台湾人学習者のデータに1例、日本語母語話者のデータに2例あった)。

⁹ 本稿でいう総語数・語数は記号などを除外して計算したものである。詳しくは、I-JAS 語数表 (version.2022.05) を参照のこと。

表 1 『I-JAS』における TW と JJ の助動詞の使用数

	TW 総語数：344770 語		JJ 総語数：264909 語	
	使用数	100 万語あたりの使用数	使用数	100 語万あたりの使用数
「らしい」	9	26.10	57	215.17
「ようだ」	32	92.82	61	230.27
「みたいだ」	82	237.84	89	335.96

表 1 のように、調査の結果、「らしい」「ようだ」「みたいだ」では、JJ より TW の使用数が少ない。特に「らしい」では TW の使用数が 9 回とごく僅かである。

以下、TW の「らしい」の使用実態を明らかにするために、(14)で収集したデータを量的かつ質的に分析する。具体的にはまず、4 節では、1) タスク別の使用状況、2) 直前と直後の表現、3) 用法別の使用状況を量的に調査する。次に 5 節では、量的調査の結果を踏まえて TW と JJ の「らしい」の使用特徴を文脈に基づき分析する。6 節では、まとめと今度の課題を述べる。

4. 考察

4.1 タスク別の使用状況

表 2 は『I-JAS』におけるタスク別の TW と JJ の「らしい」の使用数と 100 万語あたりの使用数を示したものである¹⁰。

¹⁰ 『I-JAS』におけるタスクの種類とその略称は次の通りである。

- 1) <発話データ>
ストーリーテリング (ST1、ST2)、対話 (I)、ロールプレイ (RP1、RP2)。
- 2) <作文データ>
絵描写 (D)、ストーリーライティング (SW1、SW2)。

表 2 『I-JAS』におけるタスク別の TW と JJ の「らしい」の使用数

	TW			JJ		
	各タスク の語数	使用数	100 万語 あたりの 使用数	各タスクの 語数	使用数	100 万語 あたりの 使用数
D	35259	3	85.08	18464	0	0
I	225464	6	26.61	202034	56	277.18
RP1	18065	0	0	10818	0	0
RP2	17662	0	0	10943	1	91.38
ST1	12704	0	0	5838	0	0
ST2	13719	0	0	6266	0	0
SW1	10936	0	0	4943	0	0
SW2	10961	0	0	5603	0	0
合計	344770	9	26.1	264909	57	215.17

表 2 のように、全体的には、TW より JJ の「らしい」の使用数が多い。しかし、タスク別に見ると、JJ では「らしい」が殆ど I タスク（対話）で使用されているが、TW では I タスクにおける「らしい」の使用数が極めて少ない。I タスク（対話）における TW の「らしい」については過少使用の傾向が強いと言える。

一方、D（絵描写）の使用数を見ると、JJ より TW のほうが「らしい」を多く使用している。TW に「らしい」を指導する際に、使用されやすい（またはあまり使用されない）場面や文脈を説明する必要があると思われる。

4.2 直前と直後の表現

本節では、「らしい」がどのような文脈でよく使用されるかを調べるために、「らしい」の直前と直後の表現を考察する。

表 3 は『I-JAS』における TW と JJ の「らしい」の直前の表現を示している（但し、出現数が 2 回以上（2 回を含む）のものに限っ

た)。

表 3 『I-JAS』における TW と JJ の「らしい」の直前の表現

	TW		JJ	
	直前の表現	出現数	直前の表現	出現数
1	有名	3	た	27
2	て (い) る	2	て (い) る	5
3	-	-	ある	4
4	-	-	有名	4
5	-	-	高い	2

表 3 から次のことがわかる。まず、JJ では「らしい」の直前に最も多く現れているのは「た」である。しかし、この形式は TW の「らしい」の直前には現れていない。一方、TW では「有名らしい」は 3 回現れているが、この 3 例を確認したところ同じ学習者の用例である。表 1 のように、TW の「らしい」の全使用数が 9 回のみであることを考えると、ごく一部の TW しか「らしい」を使っていないと言える。

次に、表 4 は『I-JAS』における TW と JJ の「らしい」の直後の表現を示している（但し、出現数が 3 回以上（3 回を含む）のものに限った）。

表 4 『I-JAS』における TW と JJ の「らしい」の直後の表現

	TW		JJ	
	直後の表現	出現数	直後の表現	出現数
1	φ ¹¹	4	んです	22
2	です	3	て	17
3	-	-	です	8
4	-	-	って	3

¹¹ 「らしい」に後続する形式がないことを示す。

5	-	-	ので	3
---	---	---	----	---

表4のように、調査の結果、まず、JJでは「らしい」の直後に「んです」「て」が多く出現している。JJは主節の述語だけでなく、従属節の述語にも「らしい」をよく用いていることがわかる。一方、TWでは、「らしい」の直後に「φ」「です」が最も多く出現している。TWは基本的に主節の述語に「らしい」を用いていると言える。

以上、「らしい」の直前の表現と直後の表現を考察した。効率的な指導のために、本節で明らかになった直前と直後の形式を含む文を利用して説明できると思われる。

4.3 用法別の使用状況

2節で述べたように、「らしい」は推定用法と伝聞用法がある。両用法の使用実態を確認するために、各タスクにおける用法別の使用数を調査した。表5、表6はそれぞれTWとJJの「らしい」の使用数と100万語あたりの使用数を示している。

表5 各タスクにおけるTWの「らしい」の用法別の使用数

	使用数			100万語あたりの使用数		
	伝聞	推定	合計	伝聞	推定	合計
D	0	3	3	0.00	85.08	85.08
I	6	0	6	26.61	0.00	26.61
RP1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
RP2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
ST1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
ST2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
SW1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
SW2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
合計	6	3	9	17.40	8.70	26.10

表 6 各タスクにおける JJ の「らしい」の用法別の使用数

	使用数			100 万語あたりの使用数		
	伝聞	推定	合計	伝聞	推定	合計
D	0	0	0	0.00	0.00	0.00
I	56	0	56	277.18	0.00	277.18
RP1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
RP2	1	0	1	91.38	0.00	91.38
ST1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
ST2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
SW1	0	0	0	0.00	0.00	0.00
SW2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
合計	57	0	57	215.17	0.00	215.17

表 5 と表 6 の比較から次のことがわかる。まず、JJ では推定の「らしい」が使用されておらず、伝聞の「らしい」が殆ど I タスク（対話）で使用されている。前述のように、黄（2003）、金谷（2018）では、会話では「らしい」は推定用法より、伝聞用法として使われることが多いことを指摘している。本調査結果は先行研究の指摘を裏付けるものとなった。また、TW は、JJ と異なり、I タスクでは伝聞の「らしい」をあまり使用しておらず、D タスク（絵描写）では推定の「らしい」を使用していることもわかった。

本節の考察結果を踏まえて、以下更に次のことを考えたい。即ち、1) なぜ D タスクにおいて TW が JJ より推定の「らしい」を多く使用しているのか、2) なぜ I タスクにおいて TW があまり伝聞の「らしい」を使用していないのか、ということである。この二つの問題を解決するために、5 節では文脈に基づき分析する。

5. 分析

5.1 TW の推定の「らしい」の多用

本節では、D タスクにおける TW と JJ の推定表現の使用の違いを考察し、TW の推定の「らしい」の多用の原因を探る。わかりやすいように、D タスクに使用されたイラストを次に示す¹²。



図1 『I-JAS』絵描写のイラスト

まず、(15)～(17)はD タスクにおける TW の「らしい」の用例である。これらの例では、TW は「らしい」で推定結果を説明している。

(15) <TW の用例>

A: その女の子はたぶん、ちょっと何か、何かえっと見たくない
ことを見るらしいですね (CCT15-D)

(16) <TW の用例>

A: 後その、さっき言ってた着物着てる傘差してる、方なんです
けどどどうやら、その自分の絵を書いてもらってるらしい
んで、あとそのカップルがいちゃいちゃしているところの
{笑}、ところは、とえーと川の近くんですけど、川の中で、
その遊んでる子供が、二人います (CCS04-D)

(17) <TW の用例>

¹² 『I-JAS』における「D タスク (絵描写)」は許 (1997) の課題を本人の承諾を得て利用している。

A：川、二人、子供二人は川で遊びます

A：そして、川のそばのベンチに、かつぷ、えっとー、恋人が
あります

A：でもその、女の子ーは、女の子ーは泣いている、らしい

(CCT29-D)

注目すべきは、次のことである。図 1 からわかるように、(15)と(18)(19)、(16)と(20)(21)、(17)と(22)では、絵の同じ箇所を描写しているが、JJは「らしい」を使わずに、言い切りの形、または「ようだ」「みたいだ」「感じだ」を使用している。

(18) <JJ の用例>

A：家の近くのところには、え、きょうだ、兄弟でしょうか
ん女の子と男の子がいて、男の子が何か(なにか)を食べて
いて一女の子はそれを見えています (JJJ37-D)

(19) <JJ の用例>

A：それとえっとま日傘を差して着物を着てる人ーがいて、えっ
とーこどーもがえっとまあ男、これはきし兄弟姉妹かな？

A：えっと姉ーがえっと一弟を、を見てる感じですね

(JJJ54-D)

(20) <JJ の用例>

A：えーで、えーそこから、ちょうど、絵を書いている、人がいる
んですけれども、えーとその(連体詞)絵が山の絵を書いて
いるようで、えーとちょうどそこから、子供乗せたバスが走
ってるんですけれども、んとそこの道、伝いにずーっと行く
と大きな山が、あってそれを書いているみたいですよ

(JJJ13-D)

(21) <JJ の用例>

A：家の外の壁には鳶が這ってあって、その(連体詞)鳶の近く
で人が絵を書いています

A:山の絵です

(JJJ25-D)

(22) <JJ の用例>

A:で、えー、他はあの一、他の方は、気が付いていないようで、え家の中のそういった騒動には気が付いていないようで、え一川岸で、えカップルが、え座っていますが、ベンチに座っていますが、あ、あの、何か問題があったようで、女性は泣いているようです (JJJ57-D)

前述のように、TW が D タスク（絵描写）で推定の「らしい」を多用しているが、上の考察から、更に、TW が言い切りの形や、「ようだ」「みたいだ」「感じだ」を用いるべきところに、推定の「らしい」を使用していることがわかった。今後の指導のために、なぜこうした場合に、JJ が「らしい」ではなく、前述の形式を使用するかを考える必要があると思われる。

まず、言い切りの形は、描写内容を確認な事実として聞き手に伝えようとする表現である¹³。また「ようだ」「みたいだ」は「らしい」と同じく推定表現である¹⁴。こうした場合に言い切りの形を使用するか、推定表現を使用するかは、描写内容を確認な事実として捉えるかどうかという話し手の伝達態度によると考えられる。

問題は、上述のような推定内容を伝達する場合に、なぜ JJ が「らしい」ではなく「ようだ」「みたいだ」を使用するかということである。

寺村（1984）では、「ようだ」「みたいだ」は「視覚、聴覚、その他の感覚により得た情報、あるいは周囲の状況も考慮に入れて推量した結果をいう」表現であると述べている。また、グループ・ジャマシイ（1998）では、「物事の外見や自分の感覚について『何となくそんな感じがする／そのように見える』というふうに、その印象や

¹³ 言い切りの形（確言の形）については寺村（1984：65-68）を参照のこと。

¹⁴ 「ようだ」「みたいだ」は推量用法のほかに、比況用法、婉曲用法もあるが、本稿とは関係がないので説明を省く。

外見を捉えて表現するもので、話し手の身体感覚・視覚・聴覚・味覚などといったものを通して捉えられた印象や様子を述べたり、そのような観察を総合して話し手が推量的な判断を述べるような場合に用いる」と説明している。こうした記述に基づいて考えると、JJが絵描写のような、人の表情や動きを見て推論した場合に「ようだ」「みたいだ」を用いているのは、この場合の推定結果を視覚による印象や感覚をもとにしたものとして捉えているからであると言える。

一方、TWがDタスクで「らしい」を使用している理由は次のように考えられる。2節で述べたように、従来の記述では、「らしい」は「間接的な経験（伝聞、他人の調査結果など）」または「外部からの情報や観察可能なことがらなど客観的なもの」による推論の結果を述べる表現であるとされている。しかし、こうした記述は日本語の直感のないTWにとって理解しにくいので、絵の中の人物の表情や動きを見て推論する場合は「外部からの情報」「観察可能なことがら」による推定であると誤解し、「らしい」を使用していると考えられる。

用法の違いを言葉（定義）で説明するだけでは理解しにくい。学習者の理解を促すために、例を挙げて説明することが重要である。例えば、推定の「らしい」と「ようだ」「みたいだ」の違いを指導する際に、従来の記述のように説明した上、更に人の行動を描写する場面を利用することができる。

日常生活において、人が何をしているかを述べる場面が多い。断言できる場合はもちろん推定表現を使う必要がないが、断言できない場合は、その人の表情や動きに基づいて推定することが多い。つまり、普段人の行動を描写する場合は、他人の調査結果など客観的なものではなく、その人の表情や動きを見て得た印象に基づいて推定することが多い。こうした場面に「らしい」ではなく、「ようだ」「みたいだ」を使用することを指導することで、推定の「らしい」と「ようだ」「みたいだ」との違いが理解でき、前述のようなTWの推定の「らしい」の多用を避けることができると考えられる。

以上、DタスクにおけるTWとJJの推定表現の使用の違いを考察した。本節の考察を通して、TWが推定の「らしい」と「ようだ」「みたいだ」を区別できないことを示した。また両者の違いを説明するために、人の行動を描写する場面を利用できることを提案した。

5.2 TWの伝聞の「らしい」の過少使用

本節では、IタスクにおけるTWとJJの伝聞表現の使用の違いを考察し、TWの伝聞の「らしい」の過少使用の原因を検討する。

(23)(24)では、推論の現場性（発話の現場で証拠から命題への推論が行われたこと）が認められないことから、話者は他から聞いたことを伝聞の「らしい」を用いて伝えていると言える。

(23) <JJの用例>

A: 長野の、観光地だと、松本城、ぐらいしか、浮かばないんですけど <はい>、なんか、テレビでやってたんですけど <はい>、天守閣がある、お城で <はい> 日本で一番古いらしくくて

B: あーそうなんですか (JJJ06-I)

(24) <JJの用例>

A: (略)ー <はい> えーその(連体詞)先生がもう引退されてましてー

B: あーそうですか

A: 私高校生ぐらいの時でしょうか <はい> お近くに実は住んでらしたらしくで(らしくて) <はい> でたまたま何回か(なんかいか) そういうスーパーとかでお会いしたりとかしたので <ふーん> 逆にそれでね、補われて覚えている、<あー> という部分あるかと思いますね (JJJ37-I)

注目したいことは、家族(例(25))や本人(例(26)(27))に関する情報であっても、当の話は他から聞いたことであれば、JJが伝聞の「らしい」を用いて伝えていることである。

(25) <JJ の用例>

A : あーなんかきっかけとかはどうだったんですか？

B : きっかけはもう、母親が看護師になりたかったらしくて結局なれなくて〈はい〉、まあちっちゃい（小さい）時から看護師さんかっこいいみたいなことを〈ふーん〉聞かされてたので、なんか自然と自分も、あ、看護師さんってかっこいいんだみたいな、で中学校の時から、自然に看護師さんになりたいと思ってて〈はー〉、高校も思ってその（連体詞）まま、進学しました

A : あーそうなんですね (JJJ06-I)

(26) <JJ の用例>

A : (略) 〈はい〉 J J さんって、子供の時って〈ええ〉どんなお子さんだったんですか

B : えっとね〈うん〉活発でー〈はい〉すごくおしゃべりをするー、〈へー〉うるさい子だったらしいんですけどー

A : あ、そうなんですねー

B : 自分ではわかんないんですよねー〈へー〉自分がうるさいってゆうのが {笑}

A : へーその（連体詞）うるさい子だったよ、ってゆうのは、〈うん〉ご両親から聞いた、話なんですか

B : とか先生とかー〈あー〉周りのお友達とかー〈え〉、まあ活発で明るくて、よくしゃべるみたいな

A : あ〈はい、はい〉そーうだったんですか、へーじゃお友達もいっぱいいて

B : うん (JJJ02-I)

(27) <JJ の用例>

A : ああそうですか、何（なん）か活発が故のエピソードとかあったりします？小さい頃（ころ）

B : うー、中何（なん）でも鼻に、入れる（いれる）癖があった

らしくて小石とかも全部入れちゃって（いれちゃって）、ぶどうとか、の皮も入れちゃったり（いれちゃったり）して、結局取れなくなって救急者呼んで、運ばれたこととかもあります

A：救急車に乗ったんですね小さい頃（ころ）

B：そうみたいです全然覚えてないんですけど（JJJ14-I）

一方、(28)～(31)のように、TWは、他者に関する話だけでなく、家族や、自分の覚えていない小さい頃の話であっても、それを確かな事実として聞き手に伝える傾向がある。

(28) <TWの用例>

A：うんうんうん、なるほどね、で、お母様自身は台北の方（かた）

B：いいえ、お父さんも、お母さんも金門（地名）の人で

A：あー〈うん〉、うううん、で、どうして台北に家があるんですか？

B：あ一金門（地名）の多くの方は、台北、の家を、買います
(CCS29-I)

(29) <TWの用法>

A：んー、ちょ、んー田舎と、と思います、はい、お母さんの、話し方すれば〈うん〉、でもお母さんはウン、ウンリン出身ですが〈うん〉、えっとその（連体詞）時祖父がよく転勤するので、その後（そのあと）に台中とか〈んー〉、えっとカイ（地名）とかも行ってきました〈ふーん〉、はい、そして、あー父は台中、台中の人でした〈あー〉、台中の人で、今は台北で仕事をしていますが〈はいはいはい〉、けっこう長い間台中にいました
(CCS55-I)

(30) <TWの用法>

A：はい母は最近えっとー、日本、日本じゃなく、韓国の好きに、

なって、あー最近は、えーいつもかん、韓国のドラマを見て
います (CCS39-I)

(31) < TW の用例 >

A: ふーん、えーとー、じゃあねー、ちょっとテーマ変わるんで
すけどー、〈はい〉うーん小さい時はー、どんな、子供でした
か？

B: 小さい時

A: うん

B: うーん

A: 小さい時

B: あんまり覚えてないですけどー、〈うん〉人見知りです

A: あー、そう、へえー (CCT23-I)

留意すべきは、I タスクにおいて TW が伝聞の「らしい」をあまり使用していないが、伝聞の「そうだ (そうです)」を使用していることである。表 7 は I タスクにおける TW と JJ の伝聞表現の使用数を示している。

表 7 I タスクにおける TW と JJ の伝聞表現の使用数

	伝聞表現	使用数	100 万語あたりの使用数
TW	伝聞の「そうだ」	16	70.96
	伝聞の「らしい」	6	26.61
	合計	22	97.58
JJ	伝聞の「そうだ」	4	19.80
	伝聞の「らしい」	56	277.18
	合計	60	296.98

表 7 からわかるように、全体的に、I タスクでは、TW より JJ のほうが伝聞表現（「そうだ」「らしい」）を多く使用しているが、JJ は基本的に伝聞の「らしい」を使用しているのに対して、TW は伝聞

の「そうだ」を多く使っている。

次のように TW の用例を見ると、TW が伝聞の「そうだ」を用いているのは、他者（「大学の評判」「秘書テスト」「ドライバーの娘」）に関する伝聞内容の場合である。

(32) <TW の用法>

A：どうして編入しようと思ったんですか？

B：うーん、【大学名 1】の日本語学科は一、あの、いいと、いいだそう、いいだそう、です、〈うん〉ので、【大学名 1】に入り、たかanta、たかったんです（入りたかったんです）

(CCS10-I)

(33) <TW の用例>

A：うんそうですかはい〈はい〉、えーそれからまあその留学してからその（連体詞）後（あと）は何（なに）がしたいってもう決めてますか？

B：うーん先輩のはな話から聞くと、日本、日本語の仕事に関してはなんか秘書のあのーテストがある、そうです（CCS51-I)

(34) <TW の用法>

A：はいその（連体詞）後（あと）もこの（連体詞）ドライバーさんと〈うんうん〉話し合いました

B：はい

A：で、なんかどらば（ドライバー）さんの〈うん〉娘さんも〈うん〉そうゆう状況に遭ったそうです（CCT15-I)

前述のように、JJ は、家族や自分のことを含めて、当の話は他から聞いた情報であれば、伝聞の「らしい」を使用しているが、TW では、家族や自分の情報を伝える際に、伝聞の「らしい」や伝聞の「そうだ」を用いた例は見られなかった。

以上の考察から、I タスクにおける TW の「らしい」の伝聞用法の

過少使用の原因は二つあると考えられる。一つは、JJにとって確かな事実として扱いにくい情報をTWが確かな事実として扱う傾向があるため、伝聞表現を使用すべきところを断言の形を使用しているということである。もう一つは、Iタスクのような対話において伝聞表現として「そうだ」より「らしい」が使用されやすいことを理解していないため、「らしい」より「そうだ」を使用しているということである。

留意すべきは次の2点である。まず、前述のように、Iタスクのような、軽い話題を話している、丁寧体基調の対話では、JJは伝聞の「そうだ」より伝聞の「らしい」をよく使用しているが、この考察結果は、両形式の文体的特徴が異なることを示唆するものと言える。両形式の文体的特徴を確認するために、今後対話データの種類と数を増やして更に検証する必要がある。

次に、伝聞の「そうだ」と「らしい」の使い分けと情報源の有無との関係が定かではないことである。庵ほか(2000:132)では、伝聞の「そうだ」は情報源がはっきりしている場合に使われることが多いのに対して、「らしい」はうわさなど情報源が不明確な場合によく使われる傾向があると説明している。しかし、IタスクにおけるJJの用例を見ると、伝聞の「そうだ」の例は4件のみであるが、いずれも情報源が不明確な場合での用例である。

(35) <JJの用法>

A:(略)もうちょっと遡っていただいてー、こー子供の頃?〈はい〉まあたとえば幼稚園、小学校中学校ぐらいまでもいいんですけどちっさい時ってJJさんどんなお子さんだったんですか?

B:おてんばだったそうです

A:おてんば?具体的にはたとえばなんかエピソードとかあるんですか? (JJJ10-I)

(36) <JJの用法>

A: 管理職、うちの、病院機構は五年間、ちゃんと働いて〈はい〉、
そうすると管理職の試験を受ける資格が、貰えるんですね〈はいはい〉、
なのでそれを受けて、合格するとまず、副看護師長さんになって〈はい〉、
で、籍が空き次第、働いてる病院じゃない病院で、師長になります

B: あーそうなんですか 〈はい〉、働いてる病院ではなれないんですか？

A: ではなれないそうですねー (JJJ27-I)

また小西（2011）では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「知恵袋（コア）」のデータを利用して伝達表現と情報源の有無について調査したところ、伝聞の「そうだ」は「情報源なし」の比率が高いものとして挙げられている。

小西（2011）の説明のように、前述の調査結果は「知恵袋」に基づいたもののため、他のジャンルに一般化することが難しい。また、Iタスクにおける JJ の伝聞の「そうだ」の用例が僅かであるため、対話における伝聞の「そうだ」と「らしい」の特徴を捉えることができないが、両形式の使い分けと情報源の有無については検証の余地があると言える。

以上、Iタスクにおける TW の伝聞の「らしい」の過少使用の原因を分析した。本節の結果を踏まえて考えると、伝聞表現を指導する際に、従来のように伝聞表現の機能は勿論、Iタスクのような、軽い話題を話している、丁寧体基調の対話では、伝聞の「そうだ」より伝聞の「らしい」が使用されやすいことを説明する必要があると思われる。

また、TW にとって情報の扱い方を理解することが難しいので、どのような情報が確かな事実として扱いにくく、伝聞内容として扱いやすいかを具体的に説明する必要があると思われる。例えば、前述のように、自分が覚えていない小さい頃の話や家族の話をする時、Iタスクのような対話で伝聞の「らしい」がよく使用されるので、こ

うした話題の例を追加説明することで、「らしい」の伝聞用法をより理解できると考えられる。

6. まとめと今後の課題

以上、『I-JAS』を利用して、TW と JJ の「らしい」の使用実態を考察した。考察の結果、TW の「らしい」の使用傾向と問題点は次の通りである。

(37) TW の「らしい」の使用傾向と問題点

- a. TW は推定の「らしい」と「ようだ」「みたいだ」とを区別できず、推定の「ようだ」「みたいだ」を使用すべきところを推定の「らしい」を使用している傾向がある。
- b. TW は、JJ にとって確かな事実として扱いにくい情報を確かな事実として扱う傾向がある。また対話では伝聞の「らしい」より伝聞の「そうだ」を使用する傾向があるため、「らしい」の伝聞用法の過少使用が見られる。

上記の問題点を解決するために、本稿では次のように考える。先行研究では各用法の特徴が詳しく記述されているが、直感のない日本語学習者にとって理解しにくい部分があるので、学習者の理解を促すために説明の工夫が必要である。本稿では、『I-JAS』に基づいた分析結果を参考に次のように提案した。

まず、推定の「らしい」と「ようだ」「みたいだ」の違いを指導する際に、従来のように用法の特徴を説明した上で、人の行動を描写する場面を例として用いることができる。普段、人の行動を推定する時にその人の表情や動きを見て得た印象に基づいて述べること多いので、このような場面に「らしい」ではなく、「ようだ」「みたいだ」を使用することを指導することで、TW の推定の「らしい」の多用を避けることができる。

次に、伝聞表現を指導する際に、I タスクのような、軽い話題を話

している、丁寧体基調の対話では、伝聞の「そうだ」より伝聞の「らしい」が使用されやすいことを説明する必要がある。また TW にとって情報の扱い方を理解することが難しいので、どのような情報が伝聞内容として扱いやすいかを具体的に説明する必要がある。例えば、自分の小さい頃の話や、家族の話をする時に、丁寧体基調の軽い対話で伝聞の「らしい」がよく使用されるので、こうした話題の例を挙げることで理解を深めることができると考えられる。

以上のように学習者コーパスの分析を通して、学習困難点を知ることができるだけでなく、指導のヒントを得ることも可能である。また、学習者の母語別、または地域別のデータを分析することで、母語別、地域別の学習者のニーズに合わせて説明のポイントを考えることができる。本稿では「らしい」を中心に分析したが、類似した機能を持つ「ようだ」「みたいだ」、伝聞の「そうだ」、様態の「そうだ」を考察することで TW の学習困難点や指導のヒントを体系的に整理することができる。今後の課題とする。

謝辞

本稿は『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を利用して行われたものです。代表の迫田久美子先生をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京、スリーエーネットワーク
- 金谷由美子（2018）「伝聞マーカーとしてのラシイ—日本語教育の視点から—」『日本語・日本文化研究』28、箕面、大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻、pp. 44-63.
- 菊池康人（2000）「『ようだ』と『らしい』—『そうだ』『だろう』との比較も含めて—」『国語学』51-1、東京、日本語学会、pp. 46-60.

- 許夏珮（1997）「中・上級台湾人日本語学習者による『テイル』の習得に関する横断研究」『日本語教育』95、東京、日本語教育学会、pp. 37-48.
- 楠本徹也（2008）「『ラシイ』らしさとは—『ヨウダ』との比較において—」『東京外国語大学論集』77、府中、東京外国語大学、pp. 281-296.
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』東京、くろしお出版
- 黄鈺涵（2003）「日本語初級・中級教材における推量表現「ようだ・らしい・みたいだ」について—台湾人日本語学習者のための提言—」『早稲田大学日本語教育研究』2、東京、早稲田大学大学院日本語教育研究科、pp. 95-119.
- 小西円（2011）「使用傾向を記述する—伝聞の[そうだ]を例に—」、森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多用なアプローチ』ひつじ書房、pp. 158-181.
- 斎藤学（2002）「日本語教育におけるモーダルの助動詞「らしい」の取り扱い」『日本語教育方法研究会誌』13-2、つくば、日本語教育方法研究会、pp. 34-35.
- 迫田久美子（2020）「I-JAS 誕生の経緯」迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬（編）『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』東京、くろしお出版、pp. 2-13.
- 澤西稔子（2002）「伝聞における判断性、及びその特性—「そうだ」「らしい」「とのことだ」「ということだ」「と聞く」の談話表現を中心に—」『日本語・日本文化』28、箕面、大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻、pp. 29-49.
- 田野村忠温（1991）「『らしい』と『ようだ』の意味の相違について」『言語学研究』10、京都、京都大学言語学研究会、pp. 62-78.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中嶋孝幸（1990）「不確かな判断—ラシイとヨウダ—」『三重大学日本語学文学』1、三重、三重大学日本語学文学研究室、pp. 25-33.

- 中畠孝幸（1992）「不確かな伝達—ソウダとラシイ—」『三重大学日本語学文学』3、三重、三重大学日本語学文学研究室、pp. 15-24.
- 中俣尚己（2014）『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』東京、くろしお出版
- 仁田義雄（1992）「判断から発話・伝達へ—伝聞・婉曲の表現を中心に—」『日本語教育』77、東京、日本語教育学会、pp. 1-13.
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』東京、くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法』東京、くろしお出版
- 三宅知宏（1995）『日本語類義表現の文法（上）』宮島達夫・仁田義雄（編）、東京、くろしお出版、pp. 183-189.
- 三宅知宏（2006）「『実証的判断』が表される諸形—ヨウダ・ラシイをめぐって—」『日本語文法の新地平 2 文論編』東京、くろしお出版、pp. 119-136.
- 宮崎和人（2002）「認識のモダリティ」『新日本語文法選書 4 モダリティ』東京、くろしお出版、pp. 121-171.
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』東京、角川書店
- 森山卓郎（1989）「認識のムードとその周辺」『日本語のモダリティ』仁田義雄・益岡隆志（編）東京、くろしお出版、pp. 57-120.